

取りまとめのポイント

- ① チケット・リアルタイムデータの連携高度化の意義や留意点等が不明確であることなどから、連携高度化が進展しにくい状況。
⇒ **令和4年度中に、連携高度化の意義や留意点等を「MaaS関連データの連携に関するガイドライン」に反映・改訂し、データ連携高度化の方向性を提示。**
- ② 全国単一データ連携基盤の構築が望ましいとの意見もあるが、データ形式・連携方法の共通化・標準化には、民間事業者等の既存取組への影響を考慮した検討が必要。他方、**中小・地方部事業者等を含め、データ連携希望者を取り残さないことが重要。**
⇒ **令和4年度より、広域に複数事業者が連携可能な一定のエリア/グループにおいて、データ連携基盤の実証事業を展開。**

背景

望まれる姿

経路検索により遅延情報等を確認しながら、デジタルチケットを購入・乗車

ギャップが存在

連携高度化の意義
や課題等を整理

現状

- 経路検索結果からデジタルチケットを購入できない場合がある
- リアルタイムな運行情報が一元的に手に入りづらい 等

“シームレスな移動”の実現に向けた連携高度化の意義

チケット：公共交通や移動サービスを“利用”するための手法

- 連携範囲の拡大・利便性の高いチケットにより、**一層の移動需要を喚起**
- 発券手続等のデジタル化により、**窓口対応等の省力化・省人化を推進**

リアルタイムデータ：時々刻々と変化するリアルタイムの情報

- 適時・適切な情報提供により、**移動における乗継等を効率化**
- 遅延・運休時の代替手段を早期確認でき、**問合せ対応等の省力化・省人化を推進**

“シームレスな移動”の実現に向けた連携のあり方

データ連携基盤：連携高度化を後押しする土台となる仕組み

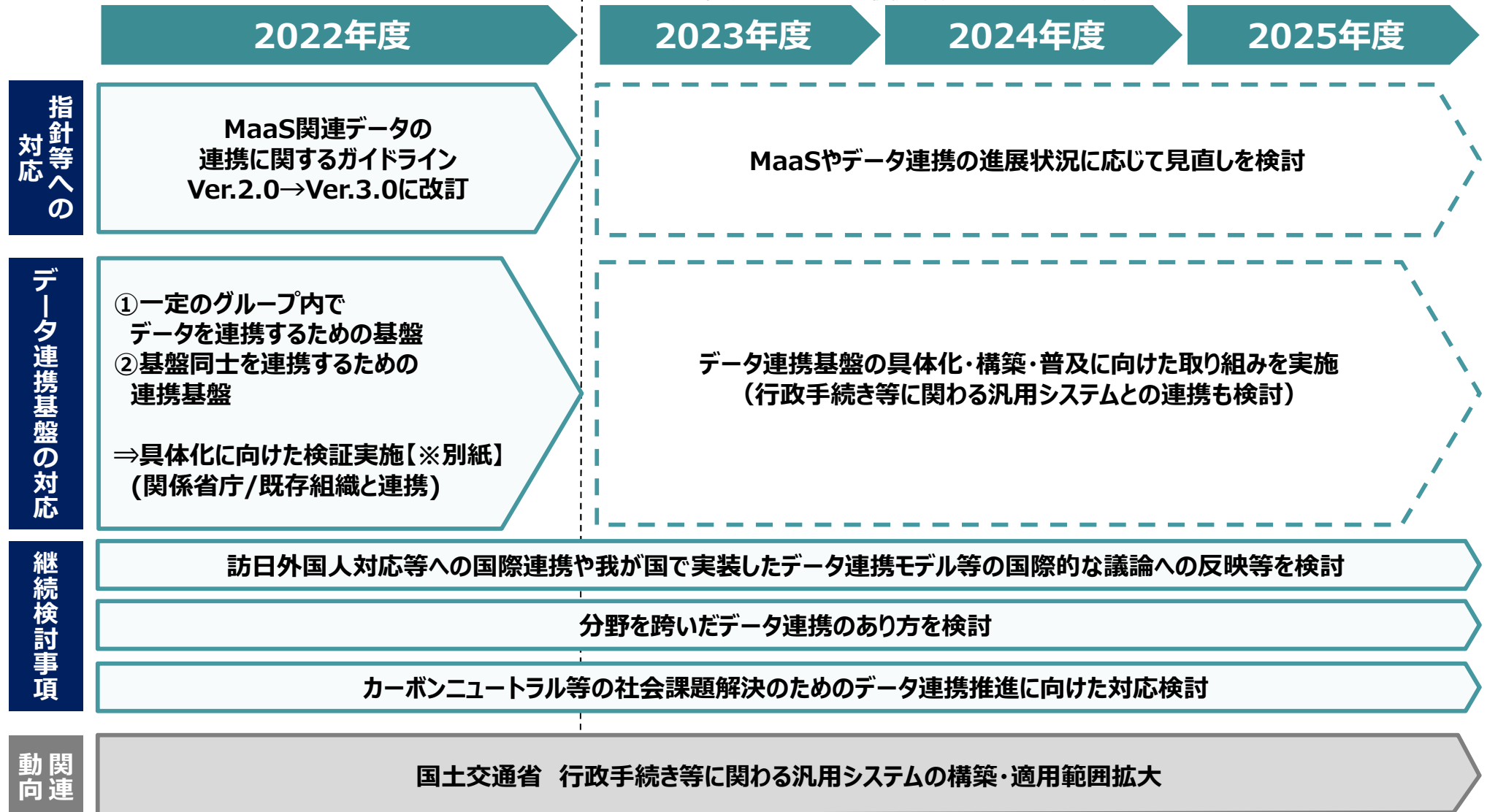
- ① **一定のグループ内**（デジタル化が進んでいない事業者も含む）**で利用できる連携基盤**
- ② **上記基盤と、他グループが利用する基盤を連携するための基盤** をそれぞれ構築・普及

今後の進め方について【工程表】

- 検討会での議論を踏まえ、今後は以下のような工程で対応を検討
- 検討に際しては、デジタル庁等の関係省庁や既存組織とも連携

来年度以降の対応については、事業者や関係省庁等の状況に応じてより優先度の高い対応を実施

交通分野におけるデータ連携の高度化に向けた検討会
取りまとめ



【別紙】 令和4年度より実施予定のデータ連携基盤の実証事業イメージ

- 将来的には全国において全事業者が利用する単一のデータ連携基盤を構築することが望ましいとの意見も寄せられたが、民間企業等による様々なシステムが既に存在していることを踏まえると、現時点において、即時に当該方向性を追求することは現実的ではない。
- まずは、以下のように、①一定のグループ内（デジタル化が進んでいない事業者も含む）でデータを連携するための基盤、及び②当該基盤と、他のグループで利用されている基盤とを連携するための連携基盤を、それぞれ構築又は普及していくことが考えられる。

